

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	環境 - 18	鳥獣保護管理対策事業	☐ 法定受託事務
所管課	環境部 環境保全課		評価者 環境保全課長 牧野 直樹
一般	会計	款 20	項 15
目 10			
総合計画上の位置付け	分野名	生活環境	施策の方針名 鳥獣保護管理対策事業

1 事業の目的

対象	市民等	意図	野生鳥獣の適正な保護及び管理のため。
効果	傷病野生鳥獣の治療のための捕獲を行うとともに、有害鳥獣による被害発生予防、被害原因除去と再発防止に努める。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	有害外来動物等調査捕獲駆除事業	有害外来動物等調査捕獲駆除事業	有害外来動物等調査捕獲駆除事業
予算額（千円）	27,020	29,930	
国県支出金	9,998	11,345	
地方債			
その他			
一般財源	17,022	18,585	0
当初人員配置数	3.5	3.5	0.0
人件費（千円）	15,568	16,211	0
事業実績	有害外来動物等調査捕獲駆除事業		
決算額（千円）	38,238		
国県支出金	12,528		
地方債			
その他			
一般財源	25,710	0	0
人員配置実績数	3.5	0.0	0.0
人件費（千円）	15,187	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名	捕獲檻の貸出件数（タイワンリス）	件	305	↓	329		
活1	実績につながる活動	タイワンリスの外来動物による生態系や生活環境への被害防止に向けて、住民等への説明・指導を実施するとともに、被害の実地調査、捕獲許可の実施、捕獲個体の処分委託を適切に行い、外来動物による被害防止に寄与した。				217		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	有害外来動物の発生状況など、自然環境や社会状況の変化が成果指標の実績に影響を与える可能性がある。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	有害外来動物の発生状況など、自然環境もあるが、有害外来動物の捕獲・駆除といった活動結果が、相談件数の減に寄与しており、事業目的である野生鳥獣の適正な保護及び管理に一定の貢献を果たしているといえる。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	タイワンリス捕獲数	頭	2,202	↓	4,603			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	有害外来動物は、長い時間をかけて生態系に浸透しているため、捕獲対象の有害外来動物の生息数の把握ができず、有害外来動物の生息状況や市民からの通報件数、捕獲依頼の増減など、外来動物を取り巻く環境の変化が活動結果指標の実績に影響を与えた。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	有害外来動物を駆除することにより、生活環境への被害を防除し、快適な生活環境の保全に寄与した。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	有害外来動物の捕獲・駆除を継続的に実施することで、生活環境や生態系への被害防止に寄与した。これにより、事業目的である野生鳥獣の適正な保護及び管理に一定の成果があったと評価できる。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☒ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
		関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性	公平性	受益者負担	☐ 導入済	☐ 導入予定	☒ 導入できない
		評価実施年度の方角性	⇒ 評価実施翌年度以降の方角性		
	事業内容の方角性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方角性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☐ ⑤ 予算規模は現状維持とする ☒ ⑥ 予算規模は拡大する ☐ ⑦ 予算規模は縮小する	

課題への対応		結果	具体的な内容	
今後の取組方針（見直し方針）	前年度の新たな課題への対応結果	未解決	有害外来動物は、長い時間をかけて生態系に浸透しているため、捕獲対象の有害外来動物の生息数の把握ができず、完全に排除することが困難である。	
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題	新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性	新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	最終的な目標である有害外来動物の完全排除は困難であるが、有害外来動物による生活環境被害は市内全域で発生しており、被害の未然防止及び軽減化を図るため、継続的に駆除を実施する必要がある。また特定外来生物のうち、捕獲数の増加が顕著であるタイワンリスについては、これまで実施してきた「生活被害防除」に加えて、市が主体となって捕獲する「計画的防除」を実施することで、捕獲圧力を一層高める。		
			上位施策への寄与度	
			B	

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	アライグマ・ハクビシン・タイワンリスの捕獲数合計								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	葉山町	三浦市	横須賀市	逗子市
他市実績	4,914	548	169	116	76	1,890	500	6,389	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	有害外来動物の捕獲数は、各自治体の生息状況や被害の発生状況、捕獲体制の違いに左右されるため、単純な数値比較は難しい。本市では、生活環境被害の防止・軽減に向けて、住民対応、実地調査、捕獲許可、駆除を継続的に実施しており、他市と比べて捕獲数が多いことは、被害が広く発生している状況に対し、必要な対応を行っている結果と捉える。今後も、他市の取組状況を参考にしつつ、被害の未然防止と計画的防除の強化を進める。
----------------------	--